

4月28日法大デモ!



朝鮮戦争とめよう!

①法大闘争-逮捕・処分と闘いぬく11年

2006年3月14日、法大当局による「ピラまき・立て看板規制」の強行に抗議デモを行った学生29名が、200人の公安警察によって全員逮捕されるという事件が起きました。29人全員が不起訴で釈放されたにも関わらず、法大当局は、文学部生3人に「退学処分」、法学部生2人に「無期停学処分」を下しました。この処分の撤回を求めて始まったのが法大闘争です。

2006年以降、法大当局は公安警察と結託して逮捕・処分を乱発すると同時に、学生の権利を破壊してきました。その激突の中、2008年にサークル自治組織の一つであった「法政大学文化連盟」は、「一人の仲間も見捨てない。これ以上の大学の暴挙を許さない」をスローガンに掲げて立ち上がりました。「左派リベラル」と呼ばれる教授たちが弾圧に加担する中、法大闘争は学生の団結と可能性にのみ依拠して闘ってきました。

学祭規制に抗議しキャンパス中央で1000人が決起！（12年10月19日）



正門前で文化連盟・全学連と機動隊が大激突！法大生1000人が合流（09年4月）

文化連盟

法政大学文化連盟(委員長・武田雄飛丸)

【メール】 bunren08@yahoo.co.jp 【HP】 <http://08bunren.blog25.fc2.com/>

② 貧困と戦争うみだす大学を変えよう!

法大闘争の中に今の社会と大学の腐敗と矛盾が凝縮しています。法大・田中優子総長は4月7日、『東京新聞』紙上で原発事故後の差別問題に触れ、「人権侵害の当事者や、当事者の声に耳を傾けようとする人の存在が、現代のような排除の時代には不可欠」と述べました。警察権力と癒着してキャンパス内での一切の政治活動を圧殺する田中総長こそ、「人権侵害」と「排除」の総責任者です。



私立大の学費は初年度納入金が130万円を超えています。奨学金は「貧困ビジネス」となり、多くの学生の人生を奪っています。学問を「ビジネス」として扱う大学が行き着いた腐敗こそ、70年ぶりの「大学の軍事研究」です。

学生の花見すら禁止する法大の現状と、大学の退廃はつながっています。切迫する朝鮮戦争と自衛隊参戦の危機に声を上げるところか、学生運動弾圧に血道をあげる大学にもはや「教育」を語る資格はありません。

奨学金返還に「防衛省で就業体験」

貧困層に「経済的徴兵制」?

文部科学省は先月末、大学生らの経済支援に関する報告書まとめた。有識者会議メンバーの一人はその検討過程で、卒業後に就職できず、奨学金の返還に苦しむ人達について「防衛省でインターンシップ(就業体験)をさせたほうがいいか」と疑問を投げかけた。若年貧困層を兵士の道に追い立てるのは「経済的徴兵制」ではないのか。(朝日新聞)

報告書の主眼は、文部省の有識者会議「学生への経済的支援のあり方に関する検討会」メンバーの田中優子(法大元総長)と、経済同友会専務理事、住友生命の常務取締役などを務めた人物だ。

奨学金返還が困難なのは、今年5月の検討会で、田中氏は「返還の延滞者が前年よりも増えている」と指摘し、田中氏は「返還が困難になる、防衛省は考えてもいい」と言っている。田中氏は「返還が困難になる、防衛省は考えてもいい」と言っている。田中氏は「返還が困難になる、防衛省は考えてもいい」と言っている。

同友会専務理事提案 格差の拡大懸念

2014年9月3日付『東京新聞』

③ 学生運動の力で朝鮮戦争とめよう!!!

米軍によるシリア侵略と連動し、朝鮮戦争情勢が切迫しています。現在、韓国で戦争絶対反対の闘いが巻き起こっています。4月8日、サード(THAAD=高高度迎撃ミサイルシステム)配備予定地である慶尚北道星州(ソンジュ)でサード配備撤回を求めて平和行動が行われました(写真右)。安倍とトランプは、韓国で始まった革命を叩き潰すために朝鮮侵略戦争を準備しています。今こそ、日本の労働者・学生が立ち上がる時です!



「森友学園事件」が示す恐るべき金権腐敗と戦争教育こそ、安倍政権の本性です。教育や学問は戦争のための道具ではありません。4・28沖縄デー闘争に集まろう!

辺野古新基地建設絶対阻止! 朝鮮侵略戦争とめよう!

4・28沖縄デー闘争

4月28日(木) 12時半～ 法政大・市ヶ谷キャンパス集合
 ※13時～ デモ出発
 15時半～ 文部科学省・申し入れ行動
 ※15時半～ 霞が関・文科省庁舎前集合

